

硬筆・毛筆書写

実力養成講座

その1

書写の基本① 楷書・片仮名

中央審査委員 平形精逸

書写検定合格をめざす方や指導者からの要請に応じて新設された「実力養成講座」です。年一回で紙面も限られていますが、各問が理解しやすいようポイントを絞って解説していきます。初回は、検定のしくみ及び片仮名と基本書体である楷書を取り上げます。

書写検定のねらい

国民一般の書写力向上をめざすために、国語科書写から芸術科書道へと系統的に位置づく教育課程をふまえ、本検定は五級から一級まで左図のような内容の関連を図っています。すなわち、五・四級の文字を「正しく整えて書く」小学校段階から、「整えて速く書く」中学校、二級の「美しく書く」高等学校、そして完成段階である硬筆と毛筆とでは性能

《硬筆・毛筆》書写検定の構造＝実技＝							
級		5級	4級	3級	2級	準1級	1級
文字を書くことの側面		実用性（書写）			芸術性（書道）		
文字感覚		〈正しく〉		〈整えて〉		〈美しく〉	
学校対応		小学校→中学校→高校→大学・一般→					
領域（文字の種類・書式など）	漢字（書体など）	楷書		行書	草書		
					臨書（楷・行・草・隷書） （毛筆のみ）		
					創作		
	仮名	平仮名（単体）		（連綿）			
		片仮名（毛筆のみ）		臨書（毛筆のみ） 創作			
	文章及び文書	縦書き・横書き（硬筆のみ）		速書き（硬筆のみ）			
				はがき・掲示物 創作			
視写及び聴写		視写（硬筆のみ）					

片仮名答案の書き方

片仮名は漢字の片方をとって出来た名前「リ・ヘ」の違いに注意しましょう。出題は三・五級に「一問」に、点画は漢字に「左払い」が多く、「右払い」が少なく、「反り」はあります。筆使いは硬筆との関連を考慮して、穂先が常に左上を向く状態を保つようにし、点画の細太はあまりつけません。字形は書写教科書や一般向けテキストを参考に、できるだけ正確に、平正で穏やかな線質を心がけましょう。楷書も同様です。

楷書答案の書き方

楷書は片仮名と同じく構造的に強い水で、平面の基礎となる水平・垂直方向をしっかりととらえます。水平といっても「横画」は五度前後右に傾きになります。字形の基本は「平行・等分割」、次に楷書固有の斜画を生かした求心構造を心がけます。「口・田」などの折れの方角はその代表例。均衡によって左右のバランスをとったり、前傾(上部がやや左にずれる)による中心のとり方も重要です。用具は五級のみが鉛筆です。枠の大きさと太さ(濃さ)は比例しますから2B・Bくらいが適切です。他の級の用具は種類が多いので、使い慣れたものを用いるのがよいでしょう。毛筆書写でも楷書は最も重要な書体です。例えは、今回の出題文字「春・夏」は左・右はらいの一対を強調します。調幅におさめることになり、「春」の三画を伸ばした字形をよく見かけたいでしょう。

点画の割合(%)

種類	楷書	片仮名
横画	30	23
折れ	12	20
縦画	18	11
左払い	10	19
右上払い	4	2
右払い	3	0
反り	1	0
曲がり	1	3
点	17	22
その他	4	0
計	100	100

3級

ネ ト
ル ン

4級

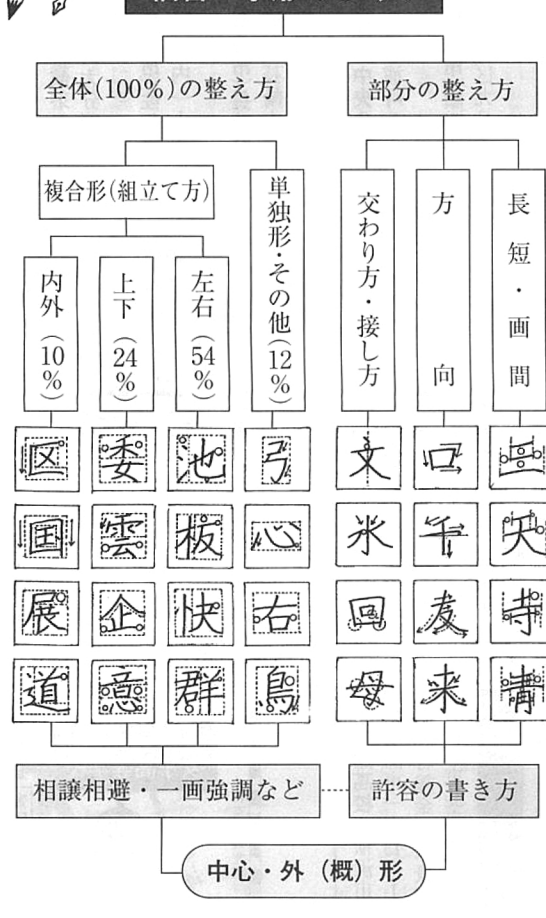
ル ア
ヒ

5級

ウ マ

すべての級の第一問に出題されています。五・三級は半紙に、三文字を、二級は三文字を楷・行で、準一級と一級は楷・行・草の三体で書きます。三級では中筆くらいの太さが書きやすいでしょう。字形は硬筆と同じです。

楷書・字形のしくみ



字体について

実技試験問題は、五・四級は教科書体活字で、三級以上は明朝体で示されます。教科書体は手書きの形に近づけた形です。短くデザインされているので、書写の字形としては二画の終筆と同じくらい位置までのばしたいです。よいのですが、時には不適切な形もあります。例えば「夏」の「夏あし」(すい)の「あし」の二画は教科書体でも明朝体と同様に短くデザインされています。二画の終筆と同じくらい位置までのばしたいです。このまま書いてしまうと活字と同じ形になってしまいます。上部を四画に下半左の接し方では横画を左につき出した形がよいでしょう。なお、旧字体を常用漢字(新字体)に書き改めても構いません。

3級	4級	5級
秋 春 冬 夏	初 夏	朝
1級	準1級	2級
長 江 萬 里 清	夕 波 千 鳥	春 彼 岸

1級	準1級	2級	3級	4級	5級
銀河星座遠雷高原夏至	開花白雲花雨月光	涼風太陽夏雲祭笛自然	夜空松風海原夏期高山	探求する心	初夏の囀り